図解による 簿記・会計・財務のしくみ

改訂版

簿記・会計学研究グループ代表・税理士
阿部健夫［著］

見る×読む→わかる

経営者・実務担当者必読!
3次元立体図とQ&Aで
基本をらくらくマスター

経営の必須科目

本当に役立つ!

自由国民社

［著 者］
阿部健夫（あべ　たけお）
1950年生まれ。栃木県足利市出身。
大学卒業後、公認会計士事務所並びに一部上場会社の経理部門を25年勤務後、現在、税理士・行政書士として中小企業のための地域活動また、財団法人トトロのふるさと財団監事としても活動中。

［企画・製作］
㈲生活と法律研究所
神木　正裕/眞田りえ子

図解による
簿記・会計・財務のしくみ

［初版発行］……2007年 7 月30日
［改訂版発行］……2011年 1 月 9 日
［著　者］……阿部健夫
［編　集］……有限会社生活と法律研究所
［発行所］……株式会社自由国民社
〒171-0033　東京都豊島区高田3丁目10番11号
☎ 03-6233-0781（販売）
☎ 03-6233-0786（編集）
http://www.jiyu.co.jp/
［発行人］……横井秀明
［印刷所］……横山印刷株式会社
［製本所］……新風製本株式会社

ⓒ 2011　　落丁，乱丁はお取替えいたします。

改訂版

図解による簿記・会計・財務のしくみ

簿記・会計学研究グループ代表・税理士
阿部健夫［著］

藏書章

自由国民社

本書の特色と読み方

本書は、簿記・会計・財務をこれから学ぶ方に贈る書であり、主に次の方に最適の書です。

①経理経験がまったくなく、起業を予定している方（特に団塊の世代）
②２世社長で、こっそり経理を学びたい方
③簿記・会計の数値がアレルギーな社会人や学生の方
④限られた時間で、簿記・会計の原理を理解したい方

特　色

①２次元である帳簿の世界を時間の概念を入れて、３次元の立体図で解説しました。（３次元とは、人間の生活空間目線である縦・横・深さで構成し表現したもの）
②３次元立体図で簿記・会計の原理を解説し、個々の問題点をＱ＆Ａ方式で解説しました。
③通常の簿記・会計の勘定科目、仕訳および帳簿組織についての解説は、必要最低限の範囲に留めました。
④複式簿記の「借方」「貸方」についても、原理の解説に重きを置き、深くは解説していません。
⑤本書の最終目標は、企業で最も重要な「決算」としました。「決算」の理解こそが最も重要だからです。
⑥図解を理解し、図解を頭に入れることにより、簿記・会計の原理がむりなく理解できます。

留意点

①限られた図解とＱ＆Ａによる解説であるため、理解できないときは、どんどんとばして読み進んでください。後から出てくる類似図解とＱ＆Ａにより繰り返し説明してありますので、理解ができるようになります。
②通常の簿記・会計の解説書とは違った表現および各章の配列をしています。本書は第１部の第１章から上りはじめ第１部第５章がピークです。それからは、ゆるやかな下り坂の解説です。全編、飽きずに読み通していただくよう工夫しました。

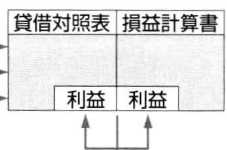
本書の読み進め方

第１部　簿記・会計のしくみの基礎知識

- 第１章　簿記の誕生と役割
- 第２章　複式簿記における「勘定」と「仕訳」
- 第３章　試算表の作成と役割
- 第４章　決算のしくみと決算手続き

決算を試みる ⇒ 第５章　１日の設立、１日の決算

読み進める　読み進める



第２部　決算書（貸借対照表・損益計算書 キャッシュフロー計算書）のしくみ

- 第１章　貸借対照表と損益計算書
- 第２章　貸借対照表の資産
- 第３章　貸借対照表の負債
- 第４章　貸借対照表の純資産
- 第５章　損益計算書の構造
- 第６章　貸借対照表と損益計算書の関係
- 第７章　キャッシュフロー計算書
- 第８章　利益計算のしくみ
- 第９章　企業と税金のしくみ

第３部　財務のしくみと実務

- 第１章　財務とはなにか
- 第２章　資本の調達
- 第３章　資本の運用
- 第４章　資金と資金繰りのしくみ
- 第５章　決算書の逆読み・速読

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

■簿記・会計・財務のしくみ■　目　次

序　章　簿記・会計を知らずして経営を語るな！ …9

1．経営者・ビジネスマンは簿記・会計に強くなれ！　9
2．経営者は日々の数字を見ること　10
3．帳簿への記帳や決算は税務申告のためではない　10
4．数字による経営判断が会社を強くする　11
5．ビジネスマンも経営数字に強くなれ　12
◆簿記から決算・納税までの流れ／本書の登場人物　12

第１部　簿記・会計のしくみの基礎知識　13

第１章・簿記の誕生と役割……14
1．単式簿記と複式簿記―単式簿記と複式簿記のしくみ　16
2．簿記と会計の遭遇による複式簿記の誕生―企業の会計処理の流れと複式簿記　18
3．複式簿記の起源―組織的な簿記、複式簿記の誕生　20
4．複式簿記の原理―複式簿記は自然界の法則に合致している　22
5．複式簿記の形式―取引における現金の増減と複式簿記による記帳　24

第２章・複式簿記における「勘定」と「仕訳」……26
1．勘定と取引―取引における現金の記帳　28
2．残高と繰越残高―各月の取引と残高の処理　30
3．勘定と勘定科目・仕訳―現金の入出金と帳簿への記帳の仕方　32
4．勘定の集計と試算表―取引の記帳から試算表の作成までの流れ　34

第３章・試算表の作成と役割……36
1．期間取引と試算表―帳簿は一定期間で締め切り決算をする　38
2．試算表の表示内容―試算表を作成し取引の整合性を確認する　40
3．試算表と利益―試算表の作成と利益の関係　42

4．試算表と貸借対照表・損益計算書—試算表の分割と組み換え　44
5．試算表と利益計算—試算表の分割と組み換え（立体図）　46
◆試算表の種類と作成　48

■第４章・決算のしくみと決算手続き……52
1．簿記・会計と決算のしくみ—決算手続きの流れ　54
2．利益計算のしくみ—企業取引から決算（利益計算）までの流れ　56
3．取引開始から決算までの手続き—取引開始から決算までの流れ　58
4．具体的な決算手続き—決算では何を確認するのか　60
5．決算手続きの要点—簿記と会計の領域と決算の手続き　62
◆決算手続きと各勘定の集結　64

■第５章・１日の設立、１日の決算　……66
1．企業取引の内容と決算—１日の設立、１日の決算－「取引」　68
2．取引記録の作成—１日の設立、１日の決算－「取引記録」　70
3．勘定科目別に集計—１日の設立、１日の決算－「集計」　72
4．決算手続きと報告—１日の設立、１日の決算－「報告」　74
◆「1 日の設立、1 日の決算」のまとめ　76

第２部　決算書 貸借対照表・損益計算書 キャッシュフロー計算書 のしくみ　79

■第１章・貸借対照表と損益計算書……80
1．貸借対照表と損益計算書の概念—会社経営の状態を３次元的に捉える　82
2．利益計算と貸借対照表・損益計算書—利益計算は各事業年度についておこなう　84
3．各事業年度と貸借対照表･損益計算書—各事業年度と貸借対照表･損益計算書の関係　86
◆翌期開始の貸借対照表の勘定の繰越　88

■第２章・貸借対照表の資産……90
1．貸借対照表と資産の概念—貸借対照表上の資産の勘定科目　92
2．現金の生涯と会計—現金は出入りにより増殖する　94
3．売掛金の生涯と会計—売掛金は現金回収により消滅する　96
4．棚卸資産の生涯と会計—棚卸資産の増減と会計　98

5．固定資産の取得と会計—固定資産の耐用年数　100
6．固定資産の減価償却と会計—固定資産は耐用年数に応じて減価償却ができる　102

第３章・貸借対照表の負債 ……104
1．貸借対照表の負債の概念—貸借対照表の負債と勘定科目　106
2．買掛金の生涯と会計—買掛金の生涯と会計のしくみ　108
3．借入金の生涯と会計—借入金の生涯と会計のしくみ　110

第４章・貸借対照表の純資産 ……112
1．貸借対照表の純資産と会計—貸借対照表の純資産と会計のしくみ　114
2．純資産の増減と会計—純資産の増減と会計のしくみ　116
3．純資産の債務超過—純資産の減少と消滅　118

第５章・損益計算書の構造 ……120
1．損益計算書の概念—損益計算書のしくみの概観　122
2．損益計算書と利益の構造—売上から原価を差し引いて計算　124
3．損益計算書と費用の構造—費用には変動費と固定費がある　126
4．損益計算書と原価の構造—損益計算書と原価のしくみ　128
5．原価と売上の関係—原価・売上と当期純利益のしくみ　130
6．損益計算書と製造原価報告書—損益計算書と製造原価報告書の関係　132
◆原価配分と費用配分　134／損益計算書の見方　136

第６章・貸借対照表と損益計算書の関係 ……138
1．取引と貸借対照表・損益計算書—貸借対照表と損益計算書の取引関係　140
2．売掛金と貸倒引当金との関係—貸借対照表と売掛金・貸倒引当金　142
3．貸倒引当金の設定—貸倒引当金・貸倒引当金繰入損の表示　144
4．貸倒引当金の消滅—回収不能の発生と会計処理　146
5．棚卸資産と売上原価の関係—棚卸資産の売上と貸借対照表・損益計算書　148
6．棚卸資産の陳腐化—棚卸資産の陳腐化と会計処理　150
7．棚卸資産の不良—不良な棚卸資産と会計　152
8．固定資産と減価償却費の関係—固定資産と減価償却費の処理　154
9．固定資産と減価償却累計額の関係—固定資産と減価償却累計額のしくみ　156
◆純資産と借入金の違い　158

第７章・キャッシュフロー計算書 ……160

1．キャッシュフロー計算書とは―「1 日商売」キャッシュフロー計算書　162
2．キャッシュフロー計算書「間接法」―「1 日商売」キャッシュフロー計算書「間接法」の全体像　164
3．キャッシュフロー計算書「直接法」―「1 日商売」キャッシュフロー計算書「直接法」の全体像　166
4．キャッシュフロー計算書と財務諸表３表―財務諸表関連立体図「3 表」　168

第８章・利益計算のしくみ ……170

1．利益の算出の仕方―利益は差し引き概念により算出する　172
2．貸借対照表の利益―貸借対照表を裸にすると利益が残る　174
3．損益計算書の利益―損益計算書の利益の表示　176
4．利益の発生と会計―貸借対照表・損益計算書の利益の発生　178
5．利益が発生する取引―取引と貸借対照表・損益計算書の数値の増減　180
6．利益が発生しない取引―利益が発生しない取引もある　182
◆損益取引と振替取引　184

第９章・企業と税金のしくみ ……186

1．企業と法人税―法人税の税額計算の流れ　188
2．会社利益と法人所得―法人所得の税額計算の流れ　190
3．消費税の発生と納付額―消費税額の計算の方法　192
◆企業の経費節減（例）　194

第３部　財務のしくみと実務　195

第１章・財務とはなにか ……196

1．財務とはなにか―財務と資本の調達・運用　198
2．財務の流れ「製造業」―財務の流れ「製造業」　200
3．財務管理とはなにか―財務管理の役割　202
4．財務管理の体系―貸借対照表の充実と健全性を確保する為の主な財務管理　204

第２章・資本の調達 ……206

1．資本の調達の分類―資本の調達の分類　208
2．他人資本の調達―他人資本の調達と分類　210

3．自己資本の調達—自己資本の調達と分類　212
4．自己資本と株主資本等変動計算書—株主資本等変動計画書のしくみ　214
5．他人資本と自己資本の経営分析—自己資本比率と自己資本利益率　216

第３章・資本の運用 ……218

1．資本の運用の分類—調達した資本の運用　220
2．現金、預金の資本の運用とキャッシュフロー計算書
—現金・預金の資本の運用とキャッシュフロー　222
3．売掛債権の資本の運用—売掛債権の管理のしくみ　224
4．棚卸資産の資本の運用—棚卸資産の管理のしくみ　226
5．固定資産の資本の運用—固定資産の資本の運用　228
6．無形固定資産、投資、繰延資産の資本運用
—無形固定資産、投資、繰延資産の価値の見直し　230
7．資本の運用と経営分析—資本の運用と経営分析のしくみ　232

第４章・資金と資金繰りのしくみ ……234

1．資金の流れ（キャッシュフロー）—個人と法人の資金の流れの違い　236
2．資金管理と資金繰り表—貸借対照表の現金科目と資金繰り表　238
3．良好な資金繰り—良好な資金繰りのパターン　240
4．最悪な資金繰り—資金繰りの最悪なパターン　242

第５章・30分で業績が把握できる 決算書の逆読み・速読 ……244

1．貸借対照表の逆読み・速読　246
2．損益計算書の逆読み・速読　248
3．キャッシュフロー計算書の逆読み・速読　250
4．重要な会計方針に係る注記の逆読み・速読　252
5．事業報告の逆読み・速読　254

序章

簿記・会計を知らずして経営を語るな！

1 経営者・ビジネスマンは、簿記・会計に強くなれ！

「簿記・会計を知らずして経済（経営）を語るな」という言葉は、古今東西万人が認める言葉です。会社においては、ともすれば経理部の存在は重きを置かれず、営業部などが花形扱いもありますが、会社経営の根幹は簿記・会計を扱う部署にこそあるのです。

こういうことを言うと、「簿記・会計など二の次、今、大事なことはそんなことではなく、新商品の開発だ！売上高の増加だ！」という、経営者からの反論が返ってきそうです。確かに、新商品の開発も売上高の増加も重要ですが、新商品開発のためのコストおよび売上高の増加のための販売費や広告宣伝等はまぎれもなく簿記・会計の分野であり、こうした開発や販売活動を支える資金調達も簿記・会計の分野なのです。つまり、新商品の開発や売上高の増加のための販売活動も、つきつめれは投資と回収の結果、すなわちその投資に見合ったリターンがあるかどうかに尽きるのです。

新商品の開発や販売活動だけでなく、簿記・会計により、さまざまな会社の内部の状況が数字化されたのが、簿記・会計だと思ってください。数字は正直ですので、真剣に見ていけば、会社のよい部分も悪い部分も見えるのです。

なお、本書では、簿記・会計の流れに従い、3ページおよび11ページ表の構成のとおりに、そのほとんどを3次元図解入りで解説します。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

2 経営者は日々の数字を見ること

小さな企業においては、経営者自らが日々の入出金状況や売上の帳簿への記帳を確認すると、会社の実情を確実に把握することができます。また別途、資金繰り表を作成して、資金がショートしないように管理している人もいるようですが、帳簿が読めれば、こうした二重手間は不要となります。

また、こうした後ろ向きの対策だけでなく、売上やコストなどの増減を把握して、即座に対策が立てられるのです。例えば、他社より類似商品が出たとしましょう。日々、売上をチェックしておけば、会社への影響がどのようなものかが分かり、対策が立てられるのです。時間こそが重要な今日において、対策の遅れは命取りになることがあります。

3 帳簿への記帳や決算は税務申告のためではない

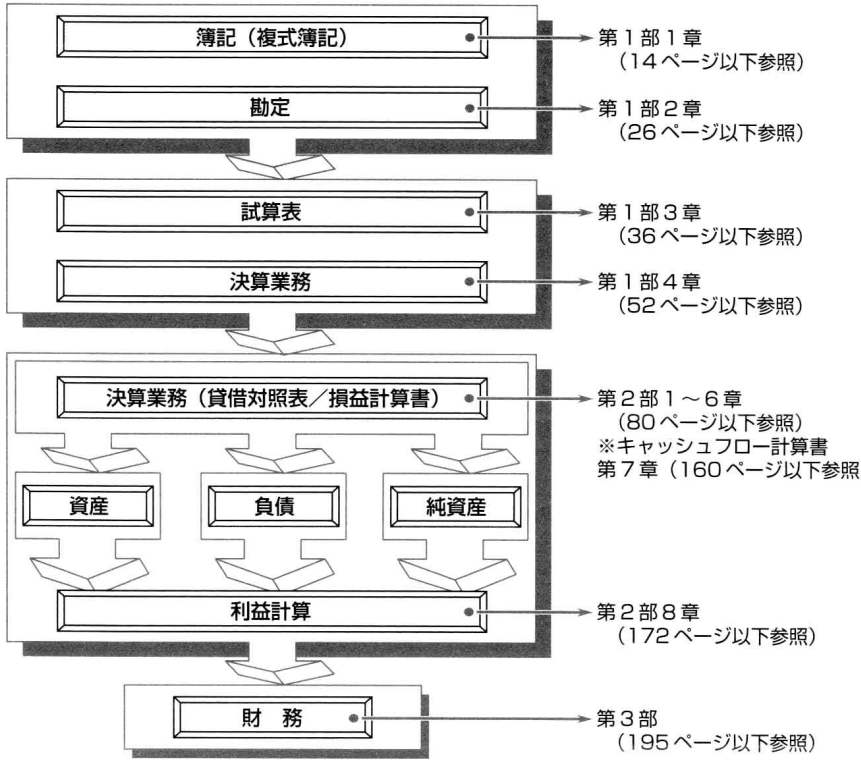
帳簿への記帳や決算には、時間と人手を要します。ただでさえ忙しい企業にとっては、一文にもならない面倒なことだと思われがちなのです。しかし、こうした考えは一社員ならともかく、会社を動かしていく経営者にとっては賢明な考え方とは言えません。

確かに、帳簿への記帳や決算は、税務署の要求するところでもあります。しかし、正論で言えば、簿記や会計は、会社自身の経営のため、あるいは財務として、株主、会社に対してお金を貸している人のためにするものなのです。決算において数字がよければ配当も多く出せ、金融機関等から運転資金の借入れも多くすることができます。

会社は設立によって誕生し、解散によって消滅する、いわば人の生涯と似ています（したがって法人という）。こうした法人においても、人の身体と同じく、状況は日々変化し、したがって、その状況を判断する必要があるのです。それが経営者の役割でもあります。もし、税務署のために帳簿への記帳や決算をしていると考えている人がいれば、その考えを即座に改めるべきです。会社の簿記・会計の数字は、会社の「健康診断」の数字です。会社の早めの「健康診断」と「予防対策」は、簿記・会計の数字によって決定されます。

◆簿記から決算・納税までの流れ

本書は、下図のとおり、①簿記・勘定から②試算表・決算、③利益計算、④財務までの一連の手続きの流れに従って編集してあります。



4 数字による経営判断が会社を強くする

数字は正直です。経営者は簿記や会計に現れるさまざまな会社経営に対するシグナルを見出す目を養ってください。会社が危ないときには、特に注意が必要です。ただし、売上が落ちているからといって直ちに危機とはかぎりません。今までの蓄えがあったり、コストが減少している場合もあるからです。逆に、売上が急増しているからと安心していてはいけません。それ以上にコストが上昇していたり、売掛金の回収が間に合わずに、資金がショートするという黒字倒産もあるからです。

今日のような情報化社会においては、経営資源である人・金・物・情報の多様化

により企業の業績の変動も大きく、日々が勝負とも言えます。したがって、経営者としては、会社が数値的にどのような流れにあるかをしっかり把握することも重要です。こうしたことは、簿記・会計・財務を知ることにより、容易にできます。

5 ビジネスマンも経営数字に強くなれ

簿記・会計に強くなってほしいのは、経営者や経理担当者はもとより、他の社員も同様です。例えば、値引きを相手から言われたときに、その商品のコストが分かっていれば、どの程度の値引きが可能かが即座に判断できますし、売上に対してどの程度の営業販売費を使えるのかも分かるでしょう。

また、決算書が読めることも重要です。会社の現状および将来性がこれから読み取ることができるからです。自分の会社の現状を知ることは、自分の将来にとっても有益ですし、また、仕事として個人のレベルでの戦略が立てられるからです。そして競争相手会社を知ることは、相手会社の決算書が読めることが必須となるでしょう。

なお、最近では株主等のための情報開示（ディスクロージャー）が叫ばれ、決算書などがインターネットで公告されている企業も多くあります。企業が大きくなっていくためには、資金調達が必要であり、こうした決算書がプロの投資家の目にさらされるのですから、会社を大きくするためには、経営者みずからが簿記・会計に強くなるしかないのです。

本書の登場人物

ルカス不老人

約500年前の時代を超越し、三次元空間により「簿記・会計・財務」を解説。

素人君

簿記・会計をまったく知らない。

新米経営者

団塊の世代で起業したばかりの経営者。

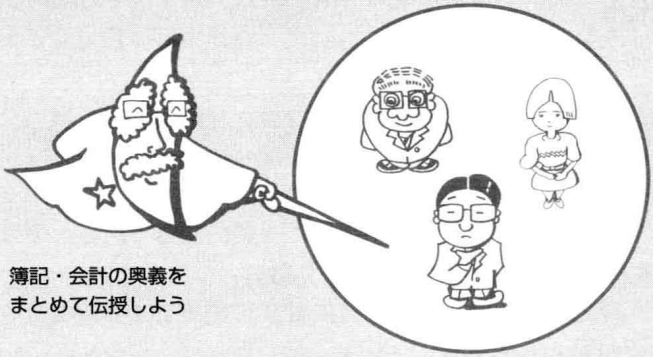
経理の新入社員

入社したばかりの経理課員。簿記を勉強中。

● 第１部 ●

簿記・会計のしくみの基礎知識

第１章●簿記の誕生と役割
第２章●複式簿記における「勘定」と「仕訳」
第３章●試算表の作成と役割
第４章●決算のしくみと決算手続き
第５章●１日の設立、１日の決算



簿記・会計の奥義を
まとめて伝授しよう

簿記（ぼき）とは、会社の経営活動に伴う取引を、
帳簿に記録し、計算し、整理する方式のことをいいます。

第1章

簿記の誕生と役割

◆この章では、複式簿記の起源を中心に、複式簿記が、なぜ世界共通形式（グローバル・スタンダード）として、不変なのかを解説する。

1 簿記とはなにか

簿記とは、企業が経済上の取引からもたらされる資産・負債・純資産の財産を管理し、同時に、一定期間の収益および費用を記録するための記帳方法だとされています。

分かりやすく言えば、会社の経営活動にともなう日々の取引について、帳簿に記録して計算をし、整理しておくことが簿記なのです。

2 簿記上の「取引」と日常で使われる「取引」は意味が異なる

日常で使われる「取引」は、広義にとらえれば、さまざまな場合に使われますが、簿記上の「取引」は、狭義にとらえれば、会社の財産に増減がある場合に限られます。

例えば、会社が建物を借りる契約をした場合、一般的には「取引」にあたりますが、簿記上は単に不動産契約をしただけでは「取引」には当たらず、現実に家賃を支払った場合に取引となります。

また、逆に、会社の商品が壊れた場合に、一般的には「取引」とは言いませんが、簿記上は廃棄損・評価損の取引が発生したことになります。

このように、簿記上の取引とは、会社の財産に変化を生じる場合の取引をいいます。

3 会社の経理をするということ

簿記取引を扱うのは、通常、経理の仕事です。しかし、創業間もない企業や小規模の企業では社長自らが経理業務を行っている場合も少なくありません。

経理の業務は通常、日々の取引を現金出納帳に記入し、簿記ルールに従って各種伝票や帳簿類に記入するというもので、こうした業務によりお金の動きを把握できることになります。

ただし、こうした各種伝票や帳簿類への記入は、今日では会計ソフトなどの開発でコンピュータへのデータの数値を打ち込むだけで後は自動的に計算をしてくれますので、さして重要な意味は持たなくなっています。しかし、簿記のルールを知らずしてコンピュータへのデータの入力は、単に事務処理作業でしかありません。

しっかりとした簿記ルールを知っておかないと、コンピュータへのデータ入力ミスがあっても発見しにくく、また、正確な会社の財産内容を把握することも困難になります。

経営者は帳簿が読めなければ、経営分析、業務の管理はできず、ひいては資金繰りや予算の編成に支障をきたす場合があります。

「複式簿記」とは、人類が約500年以上前に発明した、最も簡単な集計手段である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com